【統一様式】

資料２－１

国保水俣市立総合医療センターが担う役割について

平成３０年８月　国保水俣市立総合医療センター

1　現状と課題

【自施設の現状と課題】

ビジョン

地域の中核病院として、急性期医療を中心に高度で安全な医療を提供するとともに、経営的にも自立した、患者に選ばれる病院を目指します。

病院理念

・患者中心の医療
・安全で高度な医療
・地域との連携
・環境保全
・健全経営

診療実績（H29年度実績）

許可病床数　401床（一般397床　感染4床）※50床休床中で351床稼働
入院基本料　10対1看護、15対1看護（回復リハ）
平均入院患者数　286人/日　平均在院日数　17.0日
平均外来患者数　800人/日

職員数（H30.4.1現在）

633人（常勤416人、非常勤217人）

1　現状と課題

【自施設の現状と課題】

全職員数　633名　（H30.4.1現在）

正職員数　416名

医師	47名	視能訓練士	1名
歯科医師	2名	管理栄養士	8名
看護師	243名	臨床工学技士	6名
准看護師	0名	医療ケースワーカー	5名
臨床検査技師	22名	歯科衛生士	1名
放射線技師	13名	事務職員 （ボイラ技士含む）	26名
薬剤師	13名		
理学療法士	18名		
作業療法士	7名		
言語療法士	4名	計	416名

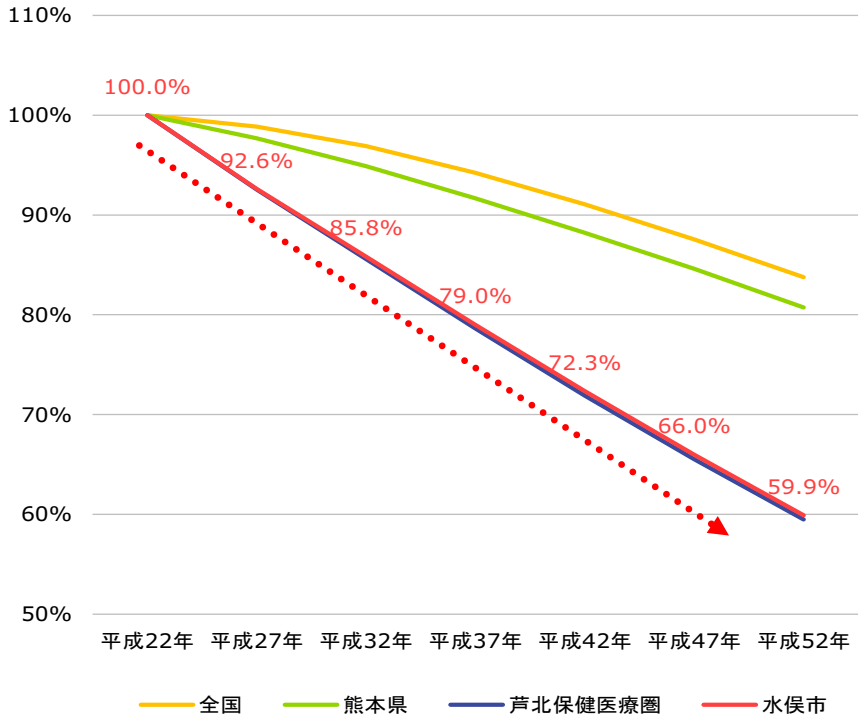
非常勤・時間制・臨時職員数　217名

医師・歯科医師	1名	医療クラーク 健診クラーク	6名 6名
研修医	4名	栄養士	19名
看護師	14名	臨床検査技師	1名
准看護師	11名	保育士	5名
看護助手	43名	介護福祉士	2名
事務補助	47名	ボイラ技士	1名
労務補助	56名		
歯科衛生士	1名	計	217名

1　現状と課題

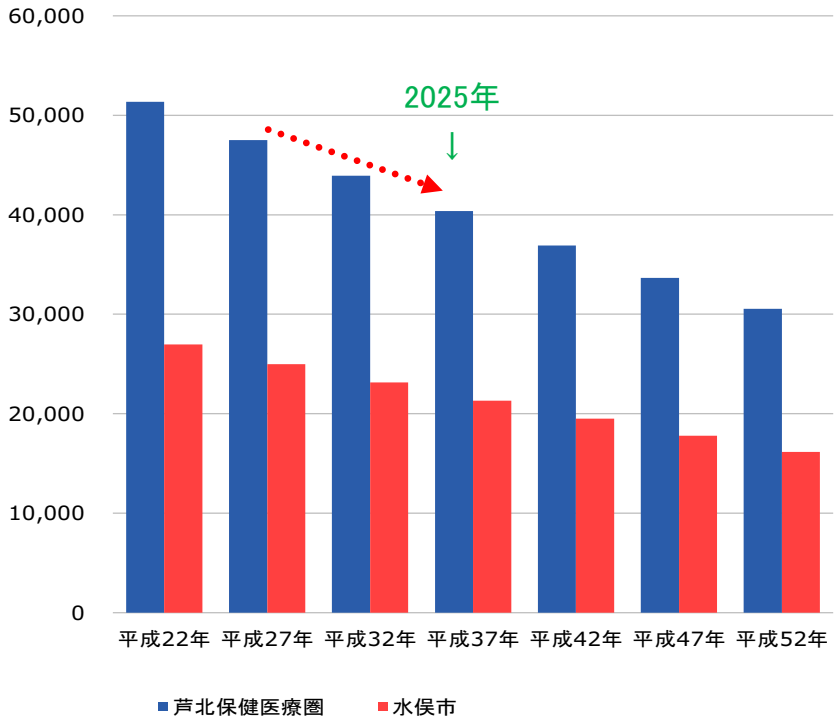
【自施設の現状と課題】

人口増減割合



出所：国立社会保障・人口問題研究所　日本の地域別将来推計人口
平成25年（2013年）3月　推計

芦北保健医療圏と水俣市の人口推移

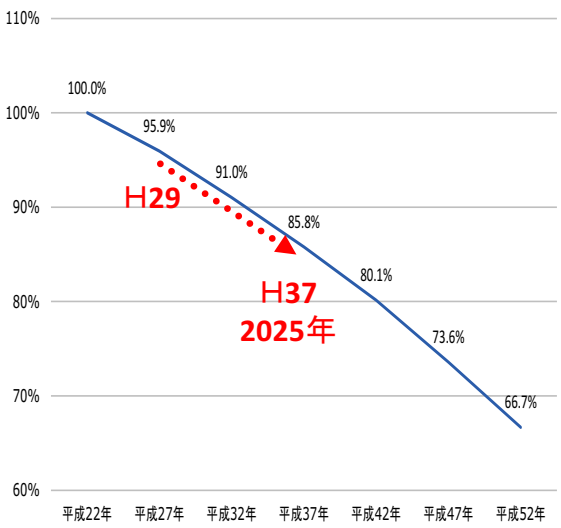


出所：国立社会保障・人口問題研究所　日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）

1　現状と課題

【自施設の現状と課題】

1日当たりの外来患者数の推移

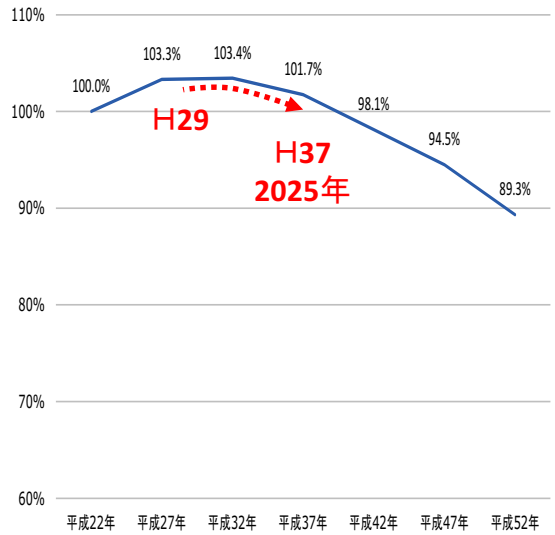


※年齢区分別将来推計人口×年齢区分別性別受療率
※受療率は熊本県の数値を使用しています（診療所の数値を含む）
※受療率の年次変化は考慮していません

1日当たりの外来患者数の推移

2010年	→	2040年
3,649人	→	2,433人
100.0%	→	66.7%
		(-33.3%)

1日当たりの入院患者数の推移



※年齢区分別将来推計人口×年齢区分別性別受療率
※受療率は熊本県の数値を使用しています（診療所の数値を含む）
※受療率の年次変化は考慮していません

1日当たりの入院患者数の推移

2010年	→	2040年
1,040人	→	929人
100.0%	→	89.3%
		(-10.7%)

出所：厚生労働省　平成26年患者調査　；　総務省　人口推計（平成26年10月1日現在）
国立社会保障・人口問題研究所　日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）

1　現状と課題

【自施設の現状と課題】

当院の特徴

４機能のうち急性期機能が中心
急性期　252床（10対1看護）
回復期　 95床（地域包括ケア50床※H29.9稼働、回復期リハ45床）

主な指定関係

地域医療支援病院
救急告示病院
災害拠点病院
DMAT指定病院、
県がん診療拠点病院
第二種感染症指定医療機関
基幹型臨床研修指定病院

１　現状と課題

【自施設の現状と課題】

当院が担う政策医療（５疾病５事業）

５疾病のうち４疾病を担っている

(1)がん・・・・・・県指定がん診療拠点病院
(2)脳卒中・・・・・急性期と回復期を担う診療拠点病院
(3)急性心筋梗塞・・急性期を担う診療拠点病院
(4)糖尿病・・・・・糖尿病教育認定施設
(5)精神疾患・・・・該当なし

５事業のうち５事業を担っている

(1)救急医療・・・・二次救急医療
(2)災害医療・・・・災害拠点病院、DMAT指定病院
(3)へき地医療・・・久木野診療所（へき地診療所）を運営
(4)周産期医療・・・地域周産期中核病院（新生児）
(5)小児医療・・・・一定の入院医療を提供

他機関との連携

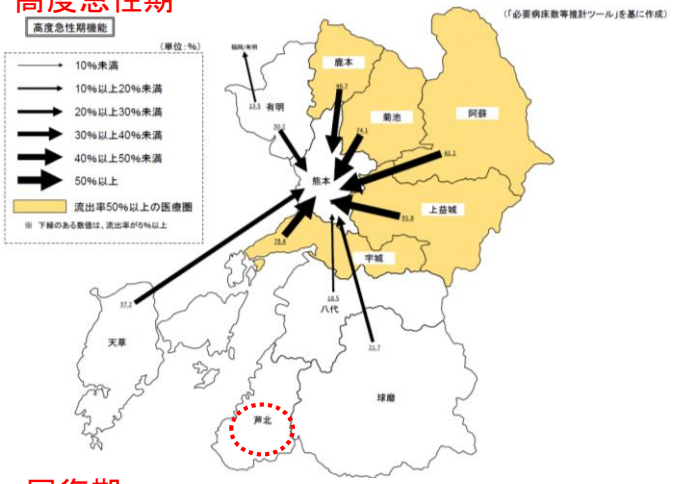
脳卒中や急性心筋梗塞に対してICTを活用したネットワークで他の医療機関と連携して対応できる環境を整えている。

２　今後の方針

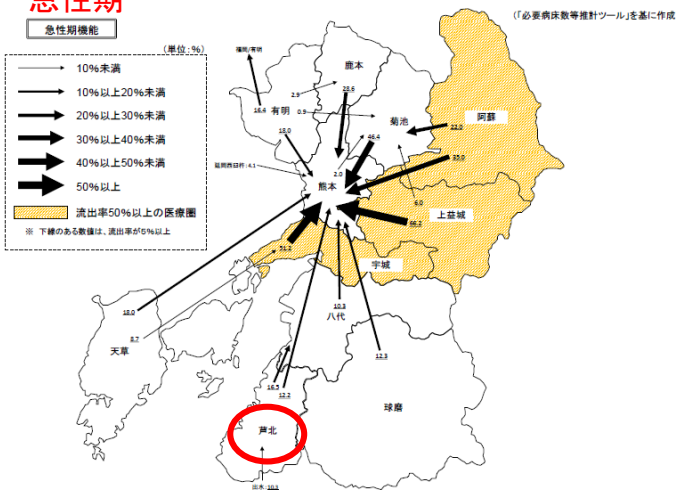
【地域において今後担うべき役割】

・芦北構想区域は、急性期機能と回復期機能が流出傾向、慢性期機能が流入傾向にある。
・高度急性期は、流入も流出もない。

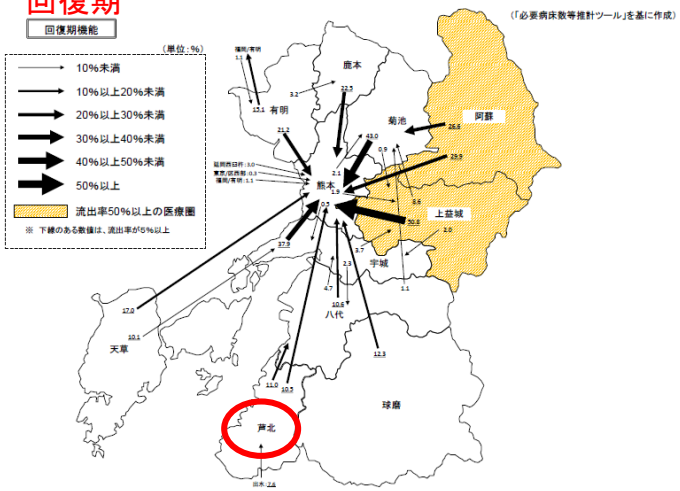
高度急性期



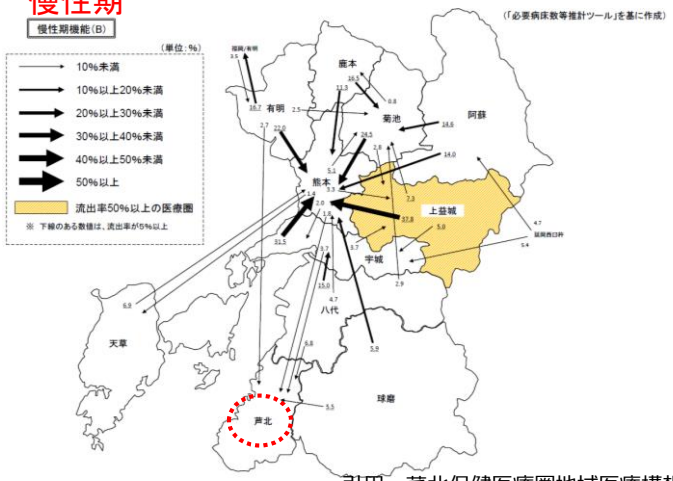
急性期



回復期



慢性期



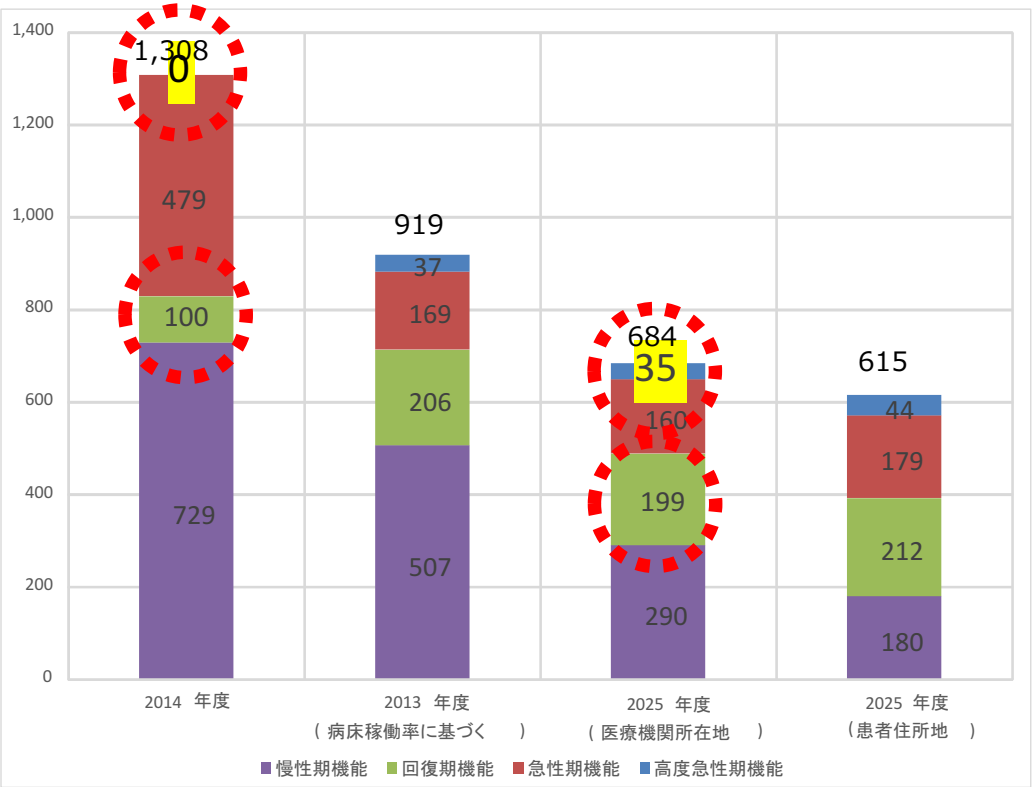
引用：芦北保健医療圏地域医療構想会議資料

２　今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

・将来推計において、急性期（過剰）の適正化と、高度急性期（不足）及び回復期（不足）の充実が求められている。

地域医療構想における将来推計

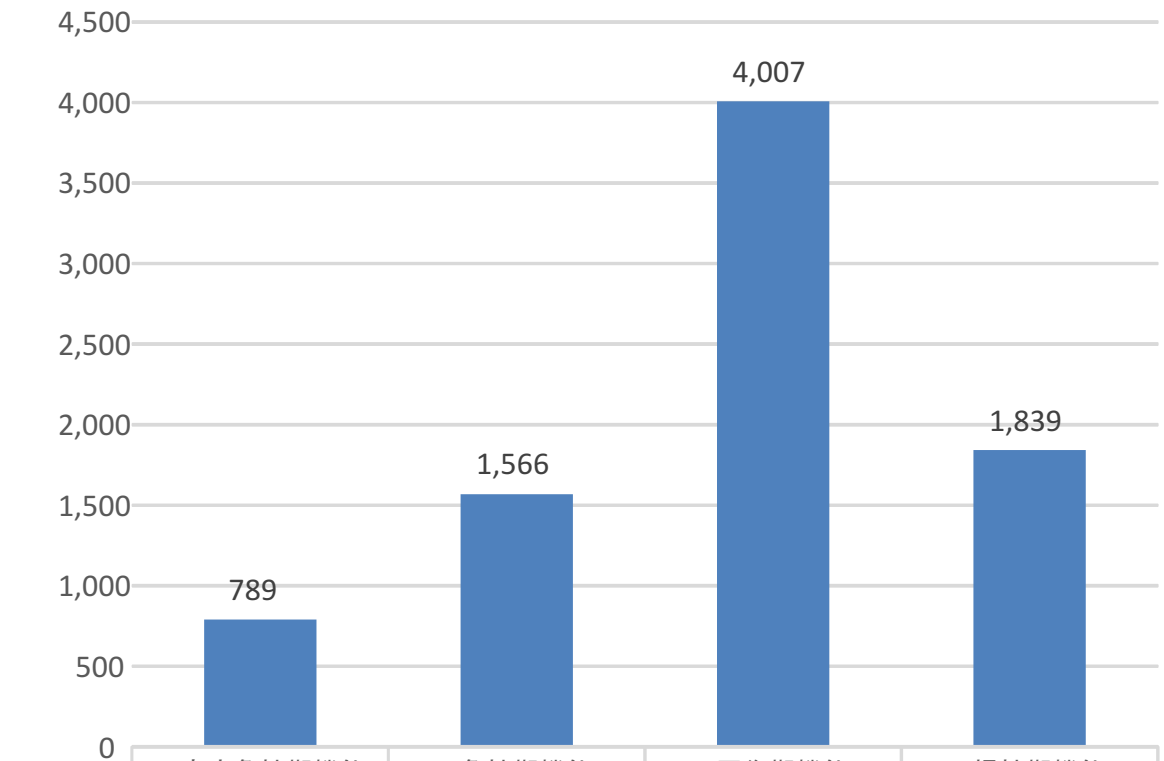


引用：平成27年7月27日熊本県水俣保健所資料

２　今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

当院の患者層



	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能
延患者数	789	1,566	4,007	1,839
1日あたり	26.3	52.2	133.6	61.3

２　今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

施策①　急性期から回復期への移行

地域包括ケア病棟の導入

⇨　H29.9.1に西4病棟に50床導入済み

施策②　高度急性期の導入

ハイケアユニット病床（ＨＣＵ）の導入

⇨　H31年度に10床導入予定

２　今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

５疾病５事業について

当院が担っている４疾病５事業は地域の中核病院の使命として今後も継続していく。

４疾病

(1)がん・・・・・・県指定がん診療拠点病院
(2)脳卒中・・・・・急性期と回復期を担う診療拠点病院
(3)急性心筋梗塞・・急性期を担う診療拠点病院
(4)糖尿病・・・・・糖尿病教育認定施設

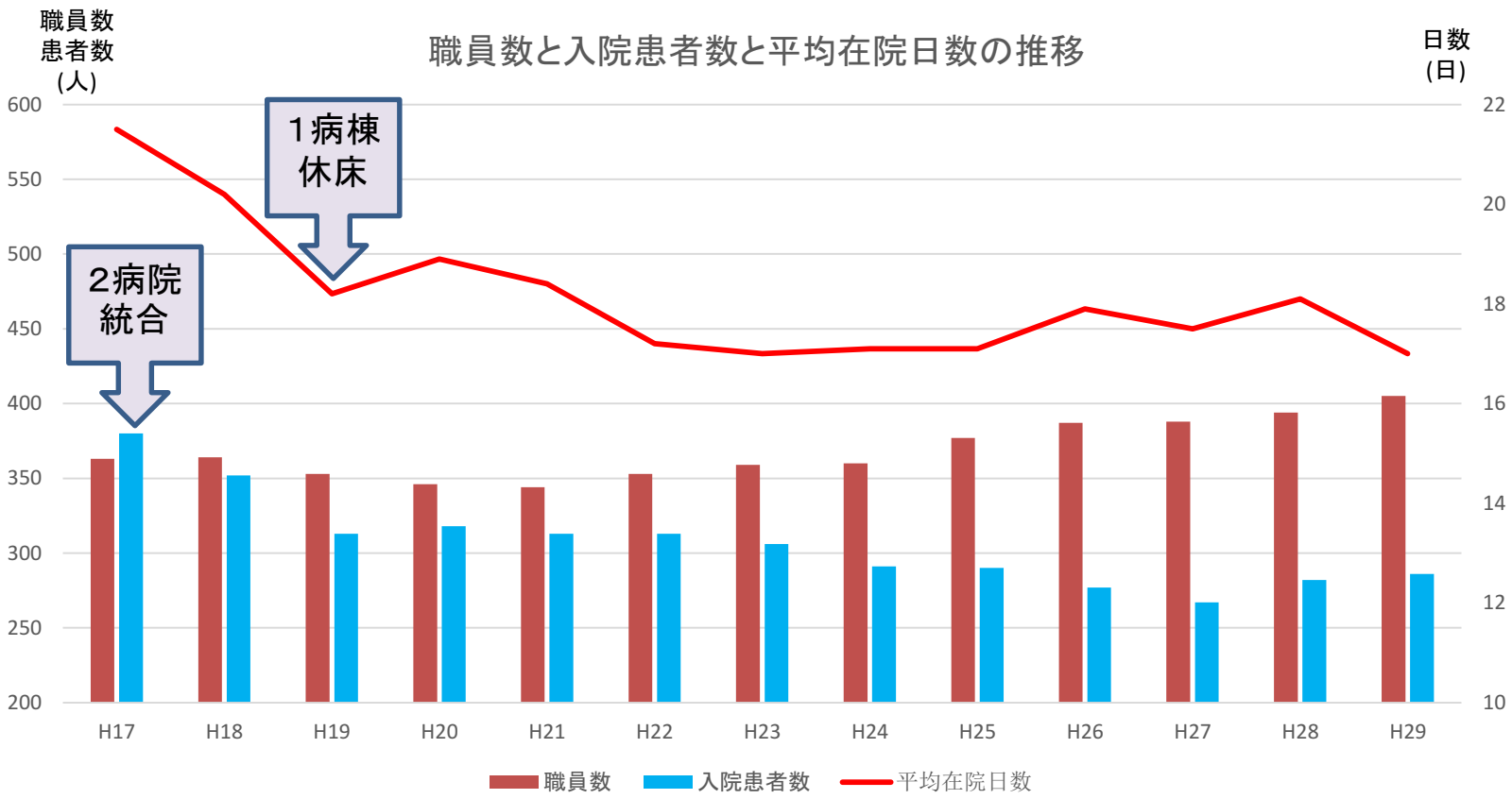
５事業

(1)救急医療・・・・二次救急医療
(2)災害医療・・・・災害拠点病院、DMAT指定病院
(3)へき地医療・・・久木野診療所（へき地診療所）を運営
(4)周産期医療・・・地域周産期中核病院（新生児）
(5)小児医療・・・・一定の入院医療を提供

３　具体的な計画
(1) 今後提供する医療機能に関する事項

変更

【 ①４機能ごとの病床のあり方】



３　具体的な計画
(1) 今後提供する医療機能に関する事項

変更【 ①４機能ごとの病床のあり方】

職種別職員数の推移

年度 職種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
医師	53	49	42	43	43	45	45	45	48	50	51	48	49
看護師	234	224	228	216	214	220	222	223	229	228	225	233	238
薬剤師	14	13	12	11	11	11	11	11	11	11	13	13	13
診療放射線技師	10	10	11	10	10	11	11	11	12	13	12	13	13
臨床検査技師	11	12	11	13	13	13	15	15	17	18	19	20	22
管理栄養士	3	3	3	3	3	3	3	4	6	8	8	8	8
医療ｹｰｽﾜｰｶｰ	2	2	3	2	2	2	3	3	4	5	5	5	5
理学療法士	10	8	8	9	9	8	11	10	11	12	13	13	15
作業療法士	4	5	5	5	4	5	6	6	6	6	7	7	7
言語聴覚士	1	1	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4
臨床工学技士	3	3	4	4	5	5	5	6	6	6	6	6	6
視能訓練士	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
歯科衛生士	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
事務職員	24	23	23	23	23	22	20	21	22	23	24	23	25
調理師	4	4	3	3	3	3	2	0	0	0	0	0	0
合計	373	358	356	346	344	353	359	360	377	387	389	395	407

３　具体的な計画
(1) 今後提供する医療機能に関する事項

変更【 ①４機能ごとの病床のあり方】

当初、休床中の５０床は返還し既存の急性期病床（小児・産婦人科病床）から１０床を高度急性期へ転換する計画としていたが、政策医療である小児医療、周産期医療を担う病院として現在の病床を維持し、休床中の病床の一部を再稼働する計画に変更する。
また、高度急性期病棟（ハイケアユニット病床１０床）には、２０名の看護師の配置が必要となることから、平成３１年度新規採用にて増員分を確保する。

高度急性期	０床	➡	１０床
急性期	２５２床	➡	２５２床（変更なし）
回復期	９５床	➡	９５床（変更なし）
その他（休床）	５０床	➡	４０床返還、１０床高度急性期へ（前回は５０床返還としていた）

３　具体的な計画
(1) 今後提供する医療機能に関する事項

変更

【①４機能ごとの病床のあり方】

単位：床

病床機能	2017年（平成29年）	2023年（平成35年）	2025年（平成37年）
高度急性期	０	１０	１０
急性期	２５２	２５２	２５２
回復期	９５	９５	９５
慢性期	０	０	０
その他	５０	０	０
合　　計	３９７	３５７	３５７

３　具体的な計画
(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 （３０年２月時点）	2025年	理由・方策
維持	呼吸器内科、神経内科、循環器内科、代謝内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、消化器内科、歯科口腔外科 全18診療科	現状維持	非常勤のみによる診療科（耳鼻咽喉科、眼科、リハビリ科）もあるが、総合病院として現状を維持していく。
新設	―	―	―
廃止	―	―	―
変更･統合	―	―	―

３　具体的な計画
(2) 数値目標

	現時点(29年10月時点)	2025年
①病床稼働率	81.1%	77.4%
②紹介率	56.0%	55.0% （H32の目標値）
③逆紹介率	91.6%	90.0% （H32の目標値）

３　具体的な計画
(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

病床稼働率

（取組み）施策①、②による病床機能分化の推進による病床稼働率の向上を図る。
（課　題）人口減少

紹介率、逆紹介率

（取組み）ＩＣＴを活用した地域医療情報ネットワーク「くまもとメディカルネットワーク」や当院の行動指針としてきた医療圏を越えた医療連携を更に推進する。
（課　題）「くまもとメディカルネットワーク」の参加者をいかに増やすか。
地域全体でのネットワーク利用の促進

４　その他特記事項

【お伝えしたいこと】

- 第７次熊本県保健医療計画において求められている機能充実に努め、安全で安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

- 限られた医療資源を競合することなく、各機関と連携を密にし、地域包括システムの構築に貢献します。

- 地域医療構想調整会議の協議結果と当センターの改革プランとの間に齟齬が生じないよう努めます。